

東北にもっと人を！復興の現場を見て、知って欲しい

一般社団法人とほくる【東北震災復興ツーリズム協会】は、2012 年度の内閣府の復興支援型地域雇用創出事業に応募。『復興現場の歩き方』出版プロジェクトが採択され、被災地のガイドブックの作成を開始しました。社会貢献のため取得できる会社の休暇制度を利用し、震災直後から宮城県災害ボランティアセンターなどで支援活動を行うなかで、現地のガイドブックの必要性を感じ、その実現に奮闘した代表の瀧澤勇人さん（右写真）にお話をお伺いしました。



ひとりの支援者の想いから始まる復興支援

震災から時間が経ちガレキなどの撤去が進むと、ボランティアの数も減り、被災地を訪れる人も少なくなってきました。現地に開設された復興商店街などからは、「もっと人が来て欲しい」という声も聞こえてきました。また被災地の多くが更地に近い状態になり、遠方から訪れた人たちには、震災前から人々の暮らしがあることなど想像できず素通りしてしまうという状況を見聞きした瀧澤さん。「たくさんの人々に被災地に来てもらい、現場の今を見て欲しい」と考え、震災前後の町の写真や地図、復興商店街の様子や支援施設・団体などを紹介するガイドブックの作成に取り組みしました。

宮城県沿岸部 15 市町の被災地の情報を網羅する冊子作成のために、ボランティアを募集しました。サポセンなどの公共施設にチラシを配布したり、支援活動で知り合った方へメールを出したり、フェイスブックを活用するなどして仲間の輪を広げていきました。集まったボランティアは 15 人。皆さん編集経験はほとんどなく、ゼロからのスタート

でしたが、取材同行や地図制作、データ入力などの作業を分担し編集作業を行いました。こうして賛同者が増え多くの人々の力が結集し、出来上がったのが『復興現場の歩き方』です。

ガイドブックを通じて被災地に人を呼びたい

2013 年 5 月に宮城県版が完成。今年度は、宮城県 2014 年度版と岩手県版を、次に福島県版を作成したいと計画しています。課題は資金調達と人材の確保。資金は、今年度の売上げをすべて復興支援のための寄附金として扱い、次の取材活動費および出版費に充当し、足りない分はいくつか助成金の申請をする予定です。活動のための人材は、随時ボランティアを募集していくとのこと。「想いを発信していると、不思議とそれが伝わり、つながっていくんですよ」と、瀧澤さん。

1000 部印刷したガイドブックの販売も好調な滑り出しで、「こんな本が欲しかった！」と、読者からの反応も良いと言います。被災地に関心を持つ人が、復興の現場に継続的に訪れ支援を続けることで、復興が促進され東北の発展につながることを信じ、「とほくる」のチャレンジが続きます。（葛西淳子）

団体紹介

一般社団法人とほくる【東北震災復興ツーリズム協会】

代表 瀧澤 勇人さん

TEL 070-6564-9980 FAX 020-4663-3053

E-mail otegami@tohokuru.com

HP <http://tohokuru.com>

〒980-0811

仙台市青葉区一番町4-1-3仙台市市民活動サポートセンター内LC. 66

『復興現場の歩き方 宮城県2013年度版』1,000円(税込み)

※仙台市市民活動サポートセンターでも販売しております。